

大阪経済大学 田島ゼミナール

○林 良哉 大島 一真 弓場 貴裕 篠崎 祐太 小川 菜々子 木本 日向子 高藤 敦子

## 1. はじめに

現在、地域における空き家や工場跡地、公共交通の撤退やインフラの老朽化の問題などが指摘されている。これらは、いずれも日本の社会の少子高齢化の問題、人口減少によって起きている問題だと、私たちは考えた。

今回、企画提案の対象である和歌山県白浜町の場合、人口が2000年から2015年にかけて約3,000人減少しており、特に生産人口の減少が大きく61.1%から52.4%となっている。白浜町は白良浜の海水浴、三段壁、千畳敷など歴史のある関西有数の観光地でもあるが、白浜へ訪れる観光客も2000年から2015年にかけて約36,200人が減少しており、交流人口についても減少傾向にある。

白浜町は公益社団法人日本トリアスロン連合と協力して、2014年より南紀白浜トリアスロン大会を開催し、スポーツツーリズムによる町おこしに取り組んでいる。

そこで、どのようにすれば交流人口を拡大できるのか、どうすればトリアスロンの街として全国から認知され、人や企業の注目を集めることができるのかについて、取り組んでみた。

## 2. 南紀白浜トリアスロン大会の現状

第4回を迎えた南紀白浜トリアスロン大会（以下白浜トリアスロンと略す）は順調に参加者を増やし、600人の参加定員に対して、参加者を制限するほどの応募がある。また、図1、2より参加者は77.3%が大会に満足しており76.2%が再参加意図を示しているため、年1回開催されている南紀白浜トリアスロン大会は成功していることが分かる。本企画グループが今年行ったアンケート調査でも「素晴らしい大会です」、「海がキレイでテンション上がりました」など大会に満足するコメントが多く寄せられていた。

しかし、町おこしを目的にはじまったスポーツツーリズムイベントだが、白浜町の観光客全体数を押し上げているわけでもなく、全国的に白浜＝トリアスロンの街というブランディングができていない。つまり、大会は成功をしているが、大会開催の最終的な目標（＝成果）である交流人口の拡大や、活動人口の増大という成果はいまだ達成していないというのが、私たちの考えである。

そこで、本企画提案では、大会として成功をおさめている現状を活用して、どのようにすれば交流人口を拡大できるのか、どうすればトリアスロンの街として全国から認知され、人や企業から注目を集めることができるのかについて、取り組んでみたい。

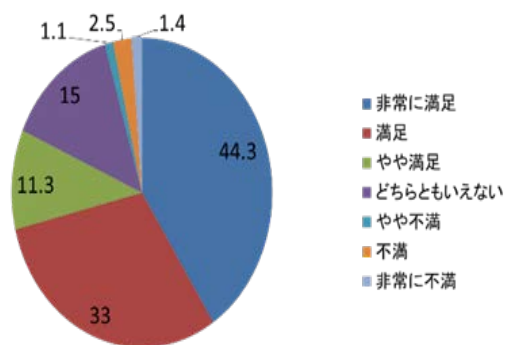


図1 大会満足度

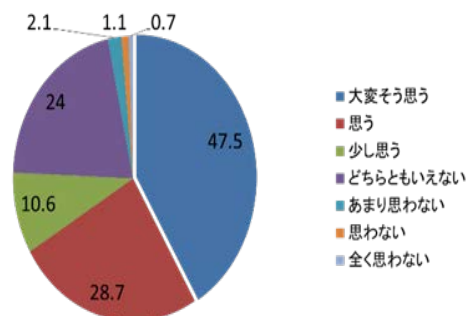


図2 再参加意図

### 《アンケート調査概要》

- ア. 大会名：南紀白浜トライアスロン大会
- イ. 時期：平成29年5月21日（日）競技終了後に配布、回収
- ウ. 場所：白浜会館
- エ. 方法：質問票配布
- オ. 目的：参加者の大会満足、再参加意図などを明らかにする
- カ. 配布数：345部
- キ. 有効回答数：281部

### 3. 提言

(1) トライアスロン合宿のメッカへ ～年1回の訪問者を年に何回も来てもらおう！～

白浜トライアスロン大会が成功しているにも関わらず、年に1度しかトライアスロン関連の催し物は行われていない。そこで私たちは、白浜町でトライアスロンの合宿環境を整えていくことを提言する。現在、大会で年に1回だけ白浜へ訪れる人を宿泊やトレーニング環境をトライアスロン仕様に整えることで、複数回来訪してもらう合宿プランである。白浜ならではの自然を活用した練習場や特産物を使ったアスリート飯、温泉など白浜でしかできない合宿を実施する。

また、宿泊施設に空き家の活用を提言する。空き家は町の景観を損なうとともに、地域のイメージダウンにもつながる。和歌山県は空き家率が全国で3位であり、その和歌山県の中で白浜町は1位である。空き家をトライアスリート仕様に変えることで、他にはないトライアスロンならではの宿泊地をつくる。以下はトライアスリート向けの具体的なサービスである。

#### ア. バイク置場

トライアスロンの練習に欠かせないバイクの置き場所を設ける。部屋への持ち運びの手間が省け、練習終わりは部屋を広く使ってゆったりと過ごせる。

#### イ. 簡易シャワー

練習終わりは砂浜の砂がついているので外ですぐに落とせるように簡易シャワーを置く。宿泊者は汚れが落とせるので気持ちよく宿舎へ戻れ、宿舎側も砂を宿舎内に持ち込まれることがないので、清掃の時間を短縮できる。

#### ウ. 整体師を呼べる

泊まっている部屋に電話 1 つで整体師を呼べるサービスである。部屋に呼ぶことでマッサージ部屋を作らずに済むので、宿泊部屋を増やすことができる。また、マッサージで 2 日目に疲れを残さないようにしてもらう。

### (2) ネオトライアスロンイベント

ネオトライアスロンとは「新しい形のトライアスロン」という意味で、通常のルールから離れた様々なトライアスロンイベントを実施する。トライアスリートに限らず様々な人をターゲットとし、遊び感覚で参加してもらう。以下に示したものが年間のネオトライアスロン計画である。

表 1 ネオトライアスロン企画

月	大会名	ターゲット	内容
5月(GW)	キッズトライアスロン大会	小学生まで	通常の距離より短く設定
6月	絶対突破したんで！トライアスロン記録会	トライアスリート(記録×)	トライアスロン大会出場における標準記録突破を目指す
9月	輝けSports Woman☆ミ	女子体育大学生	女子体育大学生が輝ける場をつくり、ナンバーワン大学を決める
10月	ハロウィントライアスロン大会	学生	おしゃれ(仮装)×スポーツで新しい楽しみ方

これらを実施することでトライアスリート以外の人も白浜町へと呼び込み、交流人口を増やすことができる。また、年間を通じてトライアスロンを感じることでできる町になるので私たちの目標である“白浜＝トライアスロンの街”というイメージも作り上げることができる。

#### 4. 実現に向けての運営方法



図 3 空き家運営の仕組み

上記の図 3 のような仕組みで空き家を活用したいと考えている。まず、トライアスリートに別荘としてリノベーションした空き家を購入してもらう。そしてその空き家を所有者に協力してもらいトライアスロン合宿の宿泊地として利用する。また、トライアスロン合宿

を行っていないときは自由に使ってもらおう。しかし、別荘なので年中使用するというわけではない。そこで、誰も使うことがない時期には宿泊施設として観光客に貸し出す。地元のホテルに運営してもらい、利益の数%は空き家の所有者にも入る仕組みにする。こうすることで、空き家が年間を通して活用されるだけでなく、所有者にも利益が見込まれるので、所有者、利用者、地元のホテルすべての人が得をするサービスとなる。



写真 1. リノベーションされた空き家のイメージ

## 5. まとめ

これまでのトライアスロンを使った提言により、主に 2 つの効果が得られる。

1 つは交流人口の増加である。まず、既存の交流人口（＝トライアスロン参加者）が年に 1 度の白浜トライアスロン大会だけでなく、トライアスロン合宿によって年複数回白浜町を訪れるようになる。次に、ネオトライアスロンによって新規開拓された交流人口が増加する。ネオトライアスロンのターゲットは年齢が定まっていないので、幅広い年齢層の観光客が訪れることが期待される。

もう 1 つは、空き資源の活用である。白浜町だけでなく全国的に問題となっている空き家問題を解決できる。白浜町で空き家を宿泊地として活用すると、景観が良くなるだけでなく、繁忙期に部屋数が足りないといった問題も解消できる。空き家は白浜町だけでなく全国的な問題となっている。このモデルを他の市町村でも活用できるように期待したい。

今後この提言を実行しようとする、リノベーションのお金はどこが負担するか、合宿の運営は誰が行うのか、空き家の所有者が現れるかなどの問題が出てくることが考えられる。それらを解決していくのは今後の課題である。白浜町の観光客の減少が緩和されることを期待したい。

### 《参考文献》

・総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（最終閲覧日 2017 年 9 月 27 日）

<http://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001030401/14>

・空き家率 [ 2013 年第一位 山梨県 ] | 都道府県別統計とランキングで見る県民性

<http://todo-ran.com/t/kiji/11971>（最終閲覧日 2017 年 9 月 27 日）